



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(令和元年)7月25日号 No.1799

目次

■ ロシアの最新の地域総生産	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2019年8月号のご紹介	8
■ トピックス	9
成田空港がウランバートル新空港運営に参画 / 9	
日立造船がロシア向けごみ発電プラント初受注 / 9	
MHPSがウズベクエネルギー省と協力覚書 / 9	
テラドローンがカザフスタンUAV企業を買収 / 9	

ロシアの最新の地域総生産

はじめに

ロシア連邦国家統計局は先日、2017年の同国の地域総生産の統計を発表した。地域総生産は国内総生産(GDP)を地域別(州などのレベル)にブレイクダウンしたものだが、GDPよりも発表が遅いので、このほどようやく2017年の数字が発表されたというわけである。そこで今回の速報では、この最新データを表にまとめてご紹介する。なお、表1では、現地通貨ルーブルで地域総生産のデータが示されているが、2017年の年平均レートは、1ドル=58.33ルーブル、1ルーブル=1.92円であった。

表1では、2017年のロシア各地域の地域総生産、住民1人当たりの地域総生産が示されている。経済規模を示す地域総生産では、1位モスクワ市、2位サンクトペテルブルグ市、3位モスクワ州と、人口が多い地域が上位に来る。それに対し、1人当たりの地域総生産ランキングでは、1位ネネツ自治管区、2位ヤマロ・ネネツ自治管区、3位ハンティ・マンシ自治管区、4位サハリン州、5位チュクチ自治管区と、資源に恵まれ人口が希薄な地域が上位を占めている。

表2は、地域総生産の実質増減率を見たものであり、つまりは各地域の経済成長率である。2017年はロシア経済が全体的にプラス成長であったため、地域別でも多くの地域でプラス成長が見受けられる。表3では、地域ごとの産業構造を示した。

なお、ロシアによるウクライナ領クリミアの併合は国際的に承認されていないが、以下の表では南連邦管区の枠内でクリミア共和国およびセヴァストポリ市のデータも参考値として示すことにする。また、ブリヤート共和国とザバイカル地方は、2018年11月にシベリア連邦管区から極東連邦管区に転籍したが、両地域は2017年時点のシベリア連邦管区の数字としてカウントされていることにご注意いただきたい。